



そのときの、その子に合わせた援助

副園長 野本 和美

残暑厳しい9月でしたが、ようやく涼しい日も増えてきて、ほっとしています。子どもたちは、様々な場を使って思い切り体を動かして遊ぶ姿があり、楽しみながら運動会に向かっていきます。

2学期に入り、夏の思い出を出し合う中で、4歳児、5歳児それぞれでおまつりの屋台作りが始まり「焼きそば」「かき氷」「射的」「チョコバナナ」などなど、様々な屋台の品物ができあがりしました。ただ、作り方は学年で違いました。4歳児では、保育者が子どもの「作りたい」気持ちを丁寧に聞き、園での製作経験を踏まえた作り方や材料を考えて提示するとともに、その子の作る姿に合わせて、手伝ったり声を掛けたりして援助をしていました。子どもたちは、それぞれに自分で作ることができた嬉しさを十分に感じ、にこにこ笑顔で屋台を開いていました。5歳児では、保育者は、子ども自身が作りたい物の実現に向けて素材を選ぶ様子を見つつ、ときに「こんな素材がある」と提案しながら、作り進める様子を見守っていきました。そして、その子の取り組む様子を認めるとともに、必要に応じてアドバイスしたり、作り方のヒントを伝えたりしていきました。子どもたちは、園で身に付けた手先の技術を駆使しながら品物を作り、本物らしくできたことに満足し、遊びを進めていきました。

文京区立幼稚園では、毎月10園の全教員が一同に集まって研究会をしています。先月は講師をお呼びして講話がありました。講話の中で「教師がやらせたいという教師主体の活動をしていませんか？幼児は楽しんでいますか？幼児のしたいことを受け止め、学年の発達や実態に応じて活動を考えていくことが大切です。忘れてはいけないのは、そのときのその子に合わせた援助をすることです。個々の姿をしっかりと受け止めて援助をしてください」というお話があり、本当にその通りだと実感するとともに、園での保育がそのように進められていることを嬉しく思いました。

これからも、子どもたちの興味関心をしっかりと捉え、発達や実態に応じて活動を考えていくと同時に、そのときのその子の姿に合わせた援助をしていきたいと思えます。



4歳児のおまつりごっこ なりきっています



5歳児が国旗のカードを見ながら、自分の選んだ国の国旗を作りました